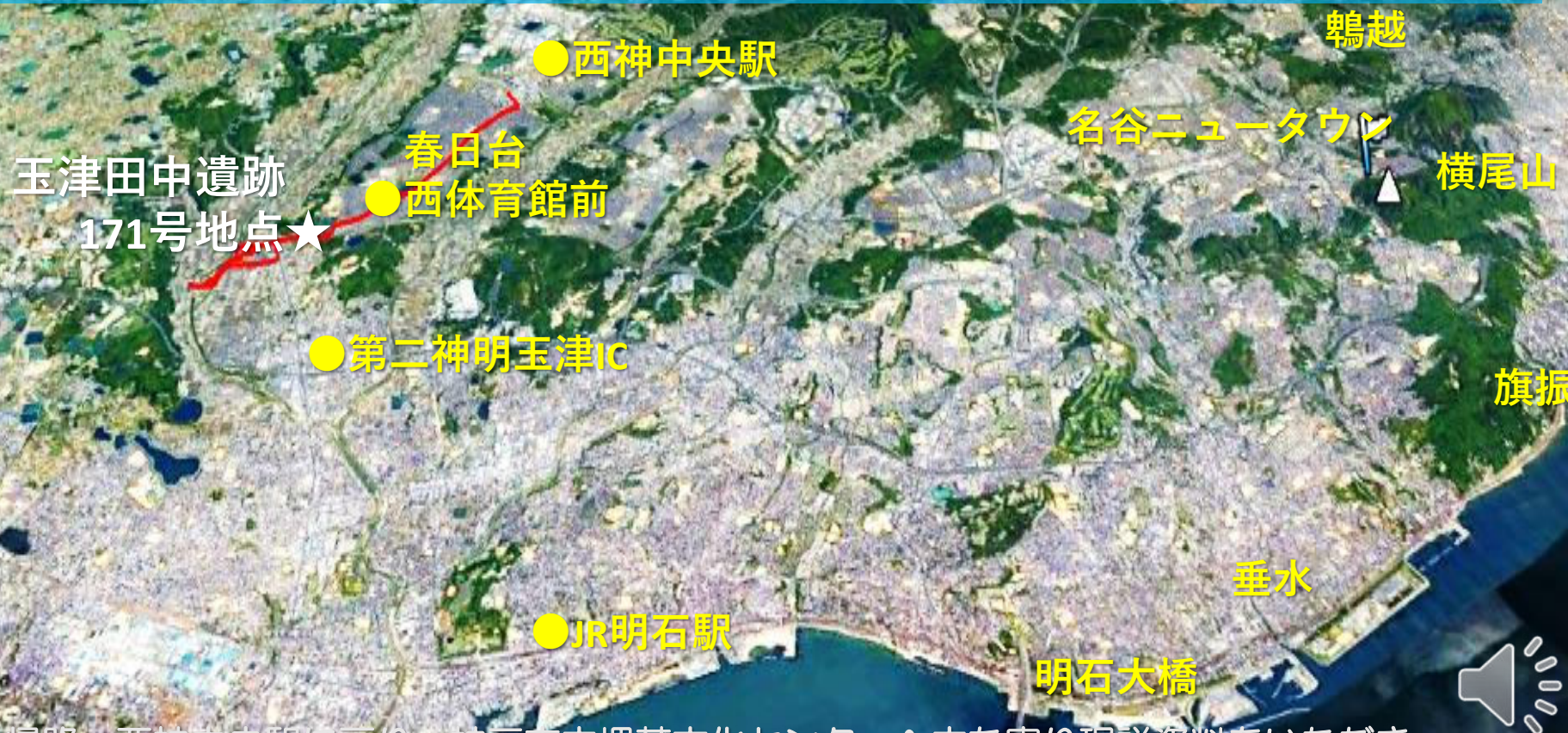


Photo Album 玉津田中遺跡発掘現場 171号地点 Walk

玉津田中遺跡171号地点を訪ねる

2020.1.22. 久しぶりの関西からの縄文ニュース

2020.2.1. by Mutsu Nakanishi



帰路 西神中央駅に戻り、神戸市立埋蔵文化センターへ立ち寄り現説資料をいただき、作成した本資料では一後先になりますが、インターネットに公開された記者発表資料を含め、訪ねた田中遺跡171号地点の発掘調査現場の記述にその資料から発掘現場をチェックして、参考として記入させていただきました

(明石平野周辺) 弥生時代の村あと



1 狩口池	●	21 西神NT.47	▲	41 森友	▲
2 舞子・栗石ヶ谷	●	22 西神NT.50	▲	42 吉田	●
3 大鹿山	●	23 西神NT.48	▲	43 片山	●
4 桜ヶ上御座出土地	▲	24 西神NT.65	▲	44 吉田南	●
5 栄弥生墳墓	●	25 大畑	●	45 新方	●
6 押部	●	26 春日神社	▲	46 久留室谷	▲
7 緒田	●	27 春日神社西	▲	47 須高山	▲
8 住吉神社	●	28 西神NT.59	▲	48 岡	●
9 元住吉山	●	29 西神NT.62	▲	49 池上北	●
10 舞田	●	30 曾野	●	50 北羽附	▲
11 舞田中の池	▲	31 玉津田中	●	51 南羽附	●
12 梨田	●	32 芝崎	●	52 池上口ノ池	●
13 梨田	●	33 居住・小山	▲	53 上ノ丸	▲
14 西神NT.38・40	▲	34 居住	●	54 別所・別所谷	●
15 西神NT.42	▲	35 橋本	●	55 堂ヶ保	●
16 観谷池	▲	36 如願寺裏山	▲	56 松ノ内	●
17 栗田	▲	37 青谷	▲	57 赤根川	●
18 常木	●	38 高津橋・田	●		
19 西戸田	●	39 今津	▲		
20 梨田南	▲	40 出谷	●		

● 前期
▲ 中期
● 後期
● 古墳群

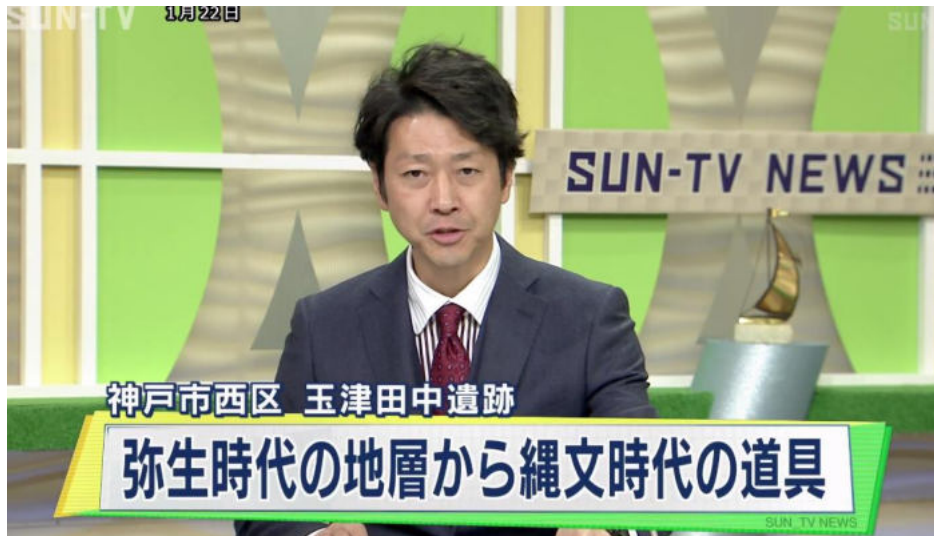


2020.1.22. 新聞・TVが大きく報道

「弥生の溝の最上部から石包丁と溝の底から土偶出土

また土坑からは弥生の土器と石棒も出土」

縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠 それもすぐ近くの
西神戸玉津田中遺跡からの出土。



神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1.22.



10数年前 縄文・弥生時代に興味を持ち出した頃、「弥生は戦さ 縄文は平和な時代」と教えてもらい、弥生の戦について調べたことがある。

弥生時代 大阪平野には殺傷痕跡を持つ人骨がいくつも出土し、周辺の高地には戦の備えという高地性集落が数多く出現。でも 縄文から弥生に移るとき 弥生人と縄文人はお互い戦わず、共生していた。

縄文から弥生へ移る時代の中で、人種間の大きな戦はなかったと。

そんな証拠として、弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土した伊丹市の口酒井遺跡を知り、強く感銘を受けた事がある。

それから 10数年 縄文が教科書からも消え、ないがしろにされる今 また、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップ。

「心優しき縄文人 縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、現地説明会には要生きませんでした。1週間後の2月1日 西神戸の玉津田中遺跡を訪ねました。

弥生の土偶「のっぺり顔」

狩猟から農耕へ「変遷知る史料」



玉津田中遺跡から見つかった土偶。表情が平面的で弥生人の特徴を示す＝神戸市西区平野町

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。

(佐藤健介)

神戸・玉津田中遺跡で発見

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方メートル。第二神明道路建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。西側にある弥生前期(約2300年前)の集落跡から、土偶の頭部(長さ約7センチ、最大幅約6センチ)と石棒(長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ)が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくつきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

秋山浩三・桃山学院大客員教授(考古学)は「呪術に象徴される縄文精神の残影が、弥生で共存していたことを如実に示している。狩猟文化が農耕文化を受け入れる過程の解明が期待できる」と評価している。

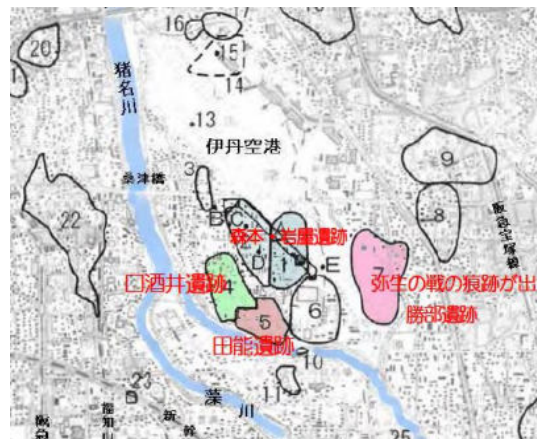
現地説明会は26日午後1時半～3時にあり、県立考古博物館(播磨町)で同日午後0時半～1時に説明会を現地からライブ中継する。

現場事務所 ☎078・961・0678 (平日午後0時10分～1時、同5～6時)

縄文人と弥生人の共生に思いを馳せて

伊丹市の空港近く猪名川東岸の弥生前期の集落遺跡

弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土し、初めて縄文人と弥生人が共生していたことを明らかにした遺跡として 強く感銘を受けました



水式土器片。左・長野県氷遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]
縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡 口酒井遺跡。約2千3百年前(弥生前期)。

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>

10数年前和鉄の道・たたら探求のホームページをはじめ、日本人のルーツや縄文や弥生の暮らしに興味を持って、縄文や弥生の遺跡を訪ね始めた頃、研究者たちが縄文人と弥生人が共生したと考え初めた最初の遺跡。

口酒井の弥生人と縄文人は共生。渡来の弥生人/縄文人の戦いの構図は虚構だったと。でも、当時 弥生の時代といえど 渡来人を中心とした農耕稲作の文化探求の時代。大阪平野や阪神間の平野部では殺傷人骨が出土する弥生の戦いがクローズアップされ、縄文人と弥生人の共生など見向きもされず、先住の縄文と渡来の弥生の戦がイメージされ、「我々の祖先は渡来の人たち」との流れの前に忘れ去られてしまった遺跡です。

10数年 縄文が教科書からも消え、縄文がさらにながしろにされる今

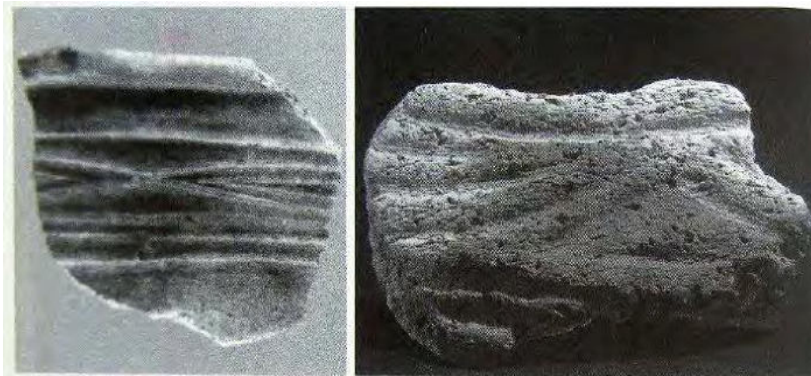
縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップされた。

「心優しき縄文人 縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては

久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、もっと縄文を知ってほしいと。

弥生人と縄文人の共生に思いを馳せて 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

弥生早期頃、東日本の縄文系の人達が
この大阪湾沿岸のこの地にやってきて、
在来の人達と一緒に生活していたことを
初めて解き明かしたのが、
伊丹市の弥生前期口酒井遺跡集落だという。



水式土器片。左・長野県水遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]
縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡 口酒井遺跡。約2千3百年前(弥生前期)。

1. 畿内と播磨の境 明石川・伊川流域

弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf>

2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して 2006.12.5. 神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫛谷

弥生初期から多くの集落があり、平野を見下ろす丘陵の上には高地性集落
ここでも「弥生の戦さ」があった

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf>

3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す

大阪湾沿岸の弥生集落 田能・口酒井遺跡を訪ねる 2012.12.21.

1.大阪湾の海岸部 猪名川河口周辺 弥生の大集落 田能遺跡

2.田能遺跡資料館「弥生の鉄 石器から鉄器へ」展示

3.東日本の縄文系の人と一緒に暮らしていた弥生の集落 口酒井遺跡

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>

4. 心優しき縄文人 縄文帰りの勧め 2014.6.1.

<https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf>

玉津田中遺跡 発掘調査状況写真



玉津田中遺跡調査区全景（南から）

玉津田中遺跡調査区全景（南から）

玉津田中遺跡 No.171地点 1区 平面図



弥生時代前期の遺構の調査状況



石棒と土器の出土状況



人形土製品（土偶）正面



人形土製品（土偶）各部名称

玉津田中遺跡調査成果の概要

- 1 遺跡名 玉津田中遺跡（たまつたなかのせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代・中世
- 4 所在地 神戸市西区平野町下村
- 5 調査面積 約1,700㎡（No.171地点）
- 6 調査期間 令和元年5月～令和2年2月末（予定）
- 7 調査原因 一般国道2号第二神明道路建設事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
担当 山田清朝副課長、國原悠斗技術職員

10 調査の概要

- ① 兵庫県を代表する弥生時代～鎌倉時代の集落遺跡である玉津田中遺跡は、昭和59年度から平成3年度にかけて土地区画整理事業に伴う発掘調査が実施されました。その後の調査の結果、遺跡の規模は南北約2km、東西約1km、面積は約1.5km²に及び、多くの土器とともに弥生時代の住居跡・墓、鎌倉時代の建物跡・墓・井戸などが多数見つかりました。
- ② 今年度、第二神明道路建設事業に伴って玉津田中遺跡の北西部を3地点（No.164地点、No.171地点、No.175地点）調査しました。今回は、そのうちNo.171地点の成果について発表します。
この調査地点から、弥生時代と鎌倉時代以降の遺構が見つかりました。
- ③ 鎌倉時代以降の遺構は、掘立住居跡・柱穴・土壇・溝があり、鎌倉時代に使用されていた須恵器・土師器も出土しましたが、その量はわずからです。
- ④ 弥生時代の遺構は、前期（今から2,300年前）のものに限られ、土壇や柱穴・溝があります。土器・石器などが出土しましたが、特筆されるものに石棒1点、人形土製品（土偶）1点があります。
- ⑤ 石棒は、縄文時代に多く見られる祭祀具で、完全な状態で出土し、和歌山県や徳島県で産出される緑泥片岩でつくられています。弥生時代の出土は兵庫県内で9例目となり、神戸市内では、本山遺跡（東灘区）、北青木遺跡（東灘区）、雲井遺跡（中央区）、大開遺跡（兵庫区）、戎町遺跡（須磨区）、宇治川南遺跡（兵庫区）について7例目、他に、丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）と井手田遺跡（南あわじ市）で出土しています。
- ⑥ 人形土製品（土偶）は縄文時代の土偶と同じく祭祀に使用されたと考えられます。溝の中から頭部がほぼ完全な状態で出土し、顔の表情が確認できます。弥生時代の出土は兵庫県内で6例目となり、神戸市内では、雲井遺跡（中央区）、宇治川南遺跡（兵庫区）、長田神社境内遺跡（長田区）について4例目、他に、口酒井遺跡（伊丹市）と丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）で出土しています。
石棒と人形土製品（土偶）が同じ遺跡から出土したのは、雲井遺跡、宇治川南遺跡、丁・柳ヶ瀬遺跡について兵庫県内で4例目となります。

11 まとめ

石棒と人形土製品（土偶）は縄文文化を象徴する一方、弥生土器や石包丁などは弥生文化を特徴づける要素で、両者が同じ調査区から一緒に出土している点が注目されます。これらは、縄文時代から弥生時代への移りかわりを知る事例と考えられます。

忘れ去られていた 縄文人と弥生人の共生を 再度クローズアップしてくれた西神戸の弥生の大集落 玉津田中遺跡

縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No171 地点

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土 神戸・玉津田中遺跡 2020.1. 22. 神戸新聞の報道

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。

土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。

専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方キロメートル。

第二神明道路バイパス建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。

西側にある弥生前期（約2300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7センチ、最大幅約6センチ）と石棒（長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして 彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。

弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.



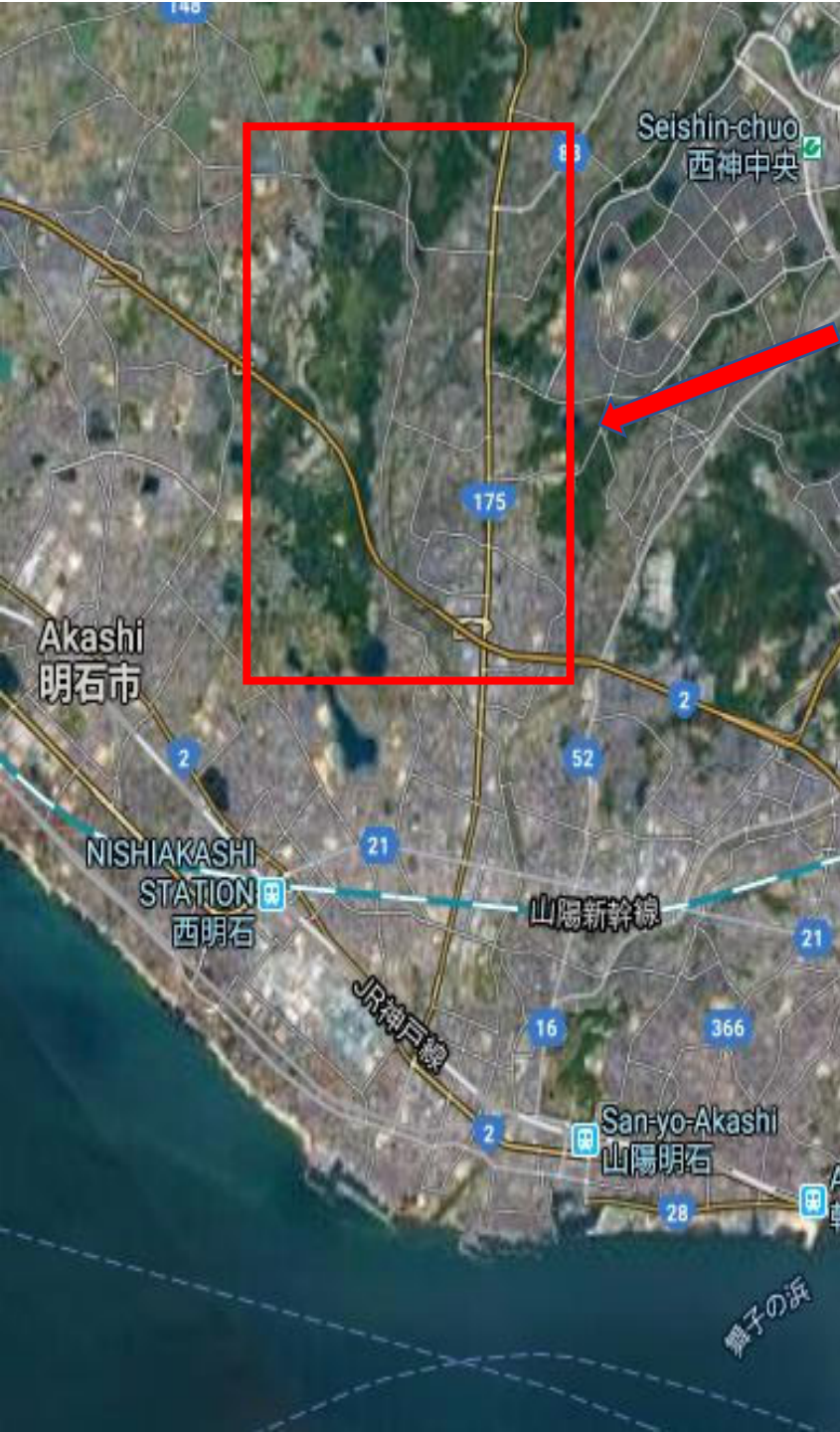
西神ニュータウン
春日台
滝川第二高

第二神明バイパス
建設予定地 171号地点

弥生の大集落を中心とした
弥生の大集落玉津田中遺跡

神戸市西区
玉津田中

第二神明道路



縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上層から石包丁と底から土偶出土
 神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明道路工事現場 玉津田中遺跡 No.171 地点

No.171地点 1区 (弥生時代前期) **玉津田中遺跡**

F166 土溝 (20分)

F167 土器片

土器の破片から、土器の底の部分で出土しています。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F168 土器片

溝の底から出土したもので、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F169 土器片

土器の破片から、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F170 土器片

土器の破片から、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F171 土器片

土器の破片から、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F172 土器片

土器の破片から、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

F173 土溝 (20分)

F174 土器片

土器の破片から、弥生時代のものと見られます。その形状は、河内県産のものと似ており、弥生時代のものであると考えられます。

No.171地点 1区 (弥生時代前期)



縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す 弥生時代の大集落遺跡 171号地点を訪ねる

2020.2.1. by Mutsu Nakanishi

滝川第二高 春日台

第二神明道路バイパス
建設予定地
171号地点

弥生の大集落
を中心とした
玉津田中遺跡

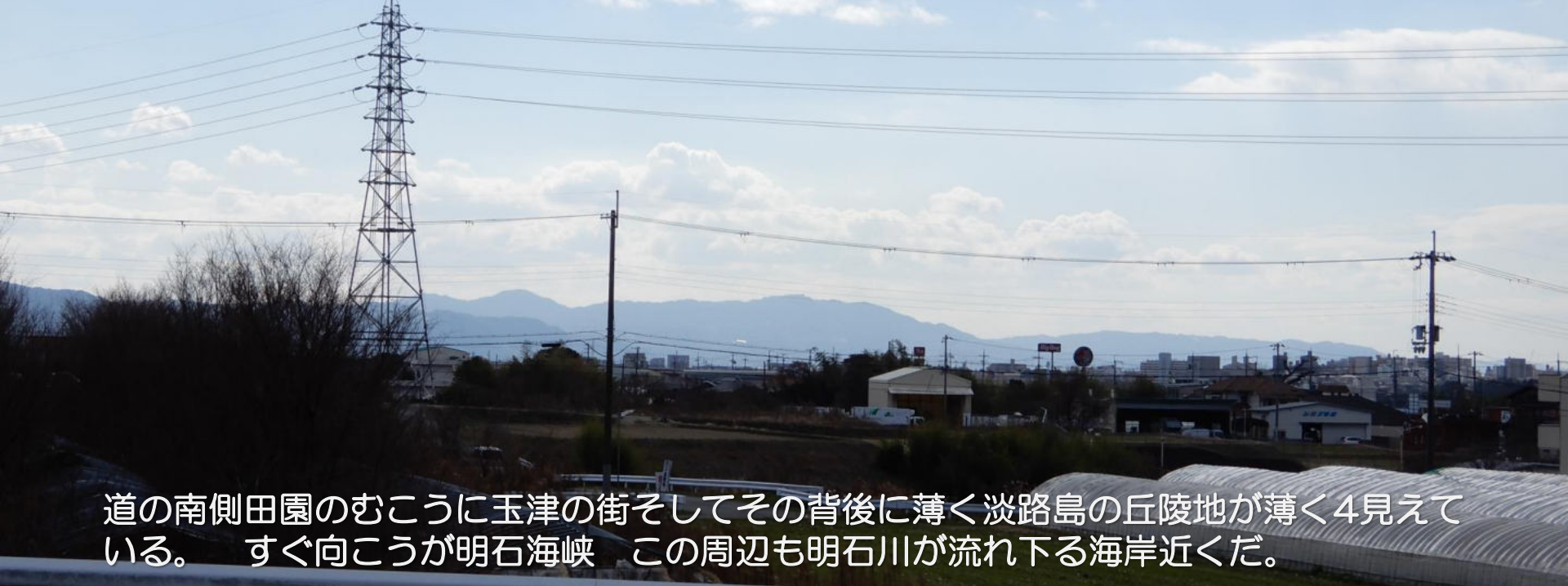
神戸市西区
玉津田中

第二神明道路

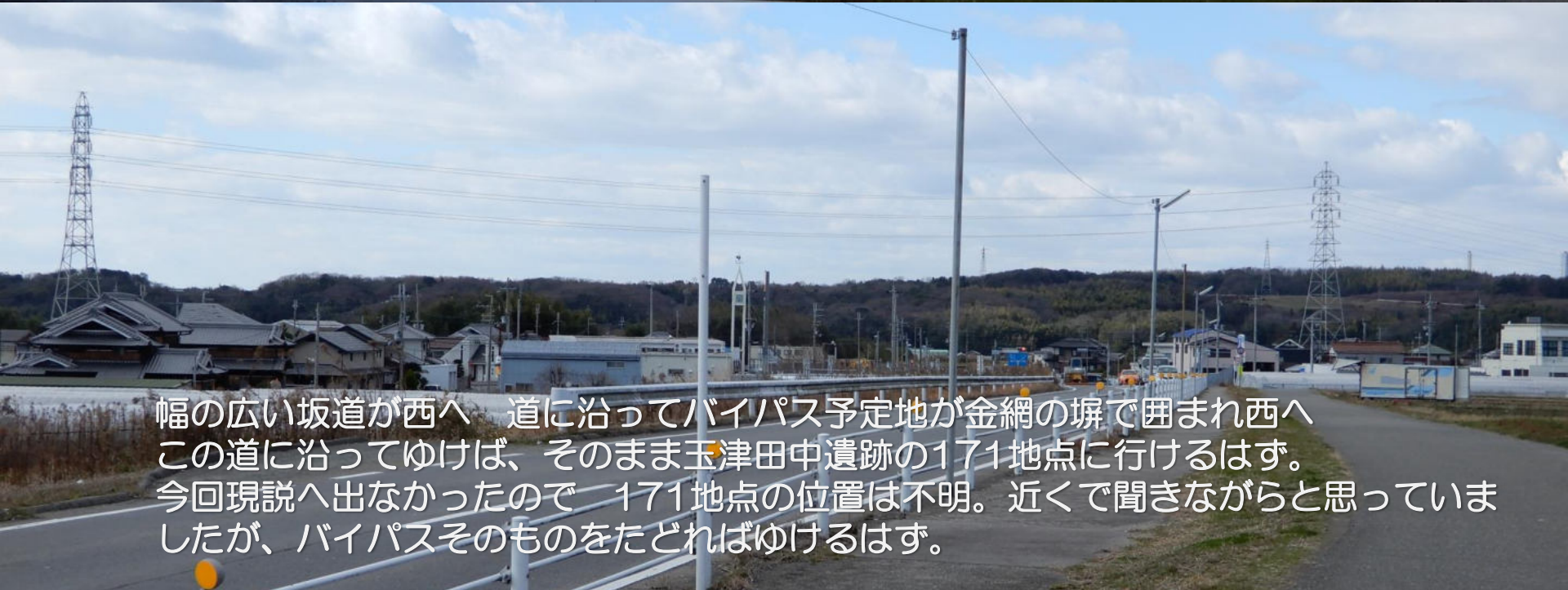


西神ニュータウンの南端 春日台の丘 から
南西側 明石川の東岸に広がる平野・玉津の集落を眺める。
2020.2.1. 西神ニュータウン南端 春日台 市バス西体育館前より

集落の後に隠れて 南に広がる広大な田園地帯がそっくり玉津田中遺跡です。
写真右端部が遺跡北端部で 今回訪ねる171号地店もその中にある
第2神明道路の新しい延伸工事がこの道路のすぐ横を西へ下り、国道171号線かを
越えて明石川に沿って南に大きくカーブして玉津に至るバイパス工事が進んでいる。
この工事部がそっくりそのまま、玉津田中遺跡の中にあり、発掘調査が進んでいる。



道の南側田園のむこうに玉津の街そしてその背後に薄く淡路島の丘陵地が薄く4見えている。すぐ向こうが明石海峡 この周辺も明石川が流れ下る海岸近くだ。



幅の広い坂道が西へ 道に沿ってバイパス予定地が金網の塀で囲まれ西へ この道に沿ってゆけば、そのまま玉津田中遺跡の171地点に行けるはず。今回現説へ出なかったのも 171地点の位置は不明。近くで聞きながらと思っていましたが、バイパスそのものをたどればゆけるはず。



坂道を下るとすぐに国道175線平野町下村のT字交差点 2020.2.1.
交差点の向こうに下村の里が広がり、先の道はバイパス道路の予定地と下村
への生活道路である。



国道175線平野町下村のT字交差点 2020.2.1.



南 玉津から明石へ



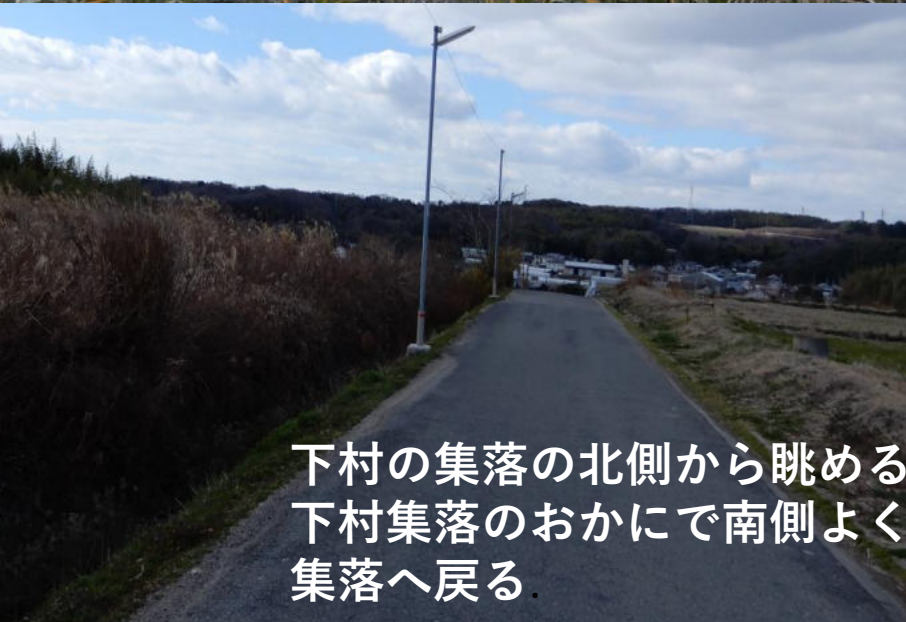
西 下村の集落



北 平野・神出から三木へ



下村のT字交差点から西へ下村の生活道路にはいるとすぐ西は 見えないが、南に流れる明石川の東岸。道はバイパス予定地を含め、南にカーブして集落を南に抜けてゆく。2020. 2. 1. 明石川が見えぬので、まず明石川の土手と集落の南に広がる田園地帯を一番にながめて、バイパス道路予定地と発掘現場を探そうと集落の中に入ってゆく。



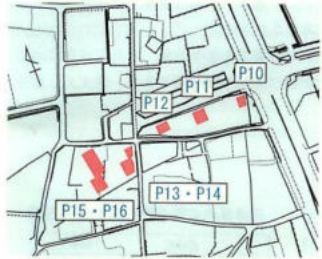
下村の集落の北側から眺める明石川
下村集落のおかにで南側よく見えず、川岸へ降りる道がないので、
集落へ戻る

2020.2.1

No. 164 地点

国道 175 号線に面するNo.164 地点では、5 箇所で調査を行いました。この調査地点は、明石川左岸の台地の上に立地しています。調査の結果、古代から中世にかけての溝や土坑、ピットが検出されています。また、P11 区の土坑からは、須恵器の碗や甕がまとめて出土しています。

これらのことから、古代から中世にかけて台地上に集落が形成されていたことが明らかとなりました。



No. 164 地点の調査区



P11 区 土坑内から出土した須恵器



集落の中の藪の中 金網で囲まれたバイパス予定地のに沿って進むと
金網に発掘調査中の張り紙 後で玉津田中遺跡 164地点と知れました



集落の中を丘を越えて南側に回り込むと南の広い田園地がみえました
この田園地全体が玉津田中遺跡 縄文・弥生から中世への大集落遺跡です。



また、集楽の藪の中 バイパス予定地の金網に発掘調査中のは野上を見つけた



明石川に沿う下村の里の丘西端を南に越える藪に接するバイパス予定地の網に
発掘調査中の張り紙と玉津田中遺跡発掘調査地が見える。
うめもどされて? 中の様子はよくわからず。
でもTVでみた広い場所てなく、後で**164号**地点と知れました。



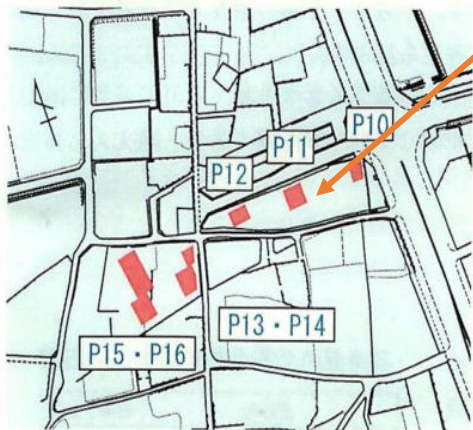
後で164号地点と知れた明石川に沿う下村の里の丘西端
埋戻されているのか？ 中の様子はよくわからず。でもTVでみた広い場所でない。
Google earth photo でも確認



No. 164 地点 古代から中世の集落跡 P11区の土坑から須恵器出土

国道 175 号線に面するNo. 164 地点では、5 箇所調査を行いました。この調査地点は、明石川左岸の台地の上に立地しています。調査の結果、古代から中世にかけての溝や土坑、ピットが検出されています。また、P11 区の土坑からは、須恵器の碗や甕がまとめて出土しています。

これらのことから、古代から中世にかけて台地上に集落が形成されていたことが明らかとなりました。



No. 164 地点の調査区



P11 区 土坑内から出土した須恵器





集落がある高台の西端 164 号地点から崖下の道を挟んで明石川の土手。
また、やっと南北の見通しが効く土手にできました 2020.2.1.



平野町下村の集落横の明石川土手で 2020.2.1.



平野町下村の明石川土手空眺める集落南の広い田園地 2020.2.1.
金網に囲まれたバイパスの予定地がその真ん中を北から南へ
このどこかに今回の発掘調査地があるのですが、ここからはよくわからない



下村集落を南に抜け、明石川沿い南の広大な田園地の北端 2020. 2. 1.
バイパス予定地が南に伸び、この中に今回土偶などが出土した発掘現場がある



春日台

平野町下村

宝珠寺

164号地点●

現在地●

玉津田中遺跡
171号地点
発掘調査現場

175号地点
発掘調査現場

中津橋

新上田橋
現場

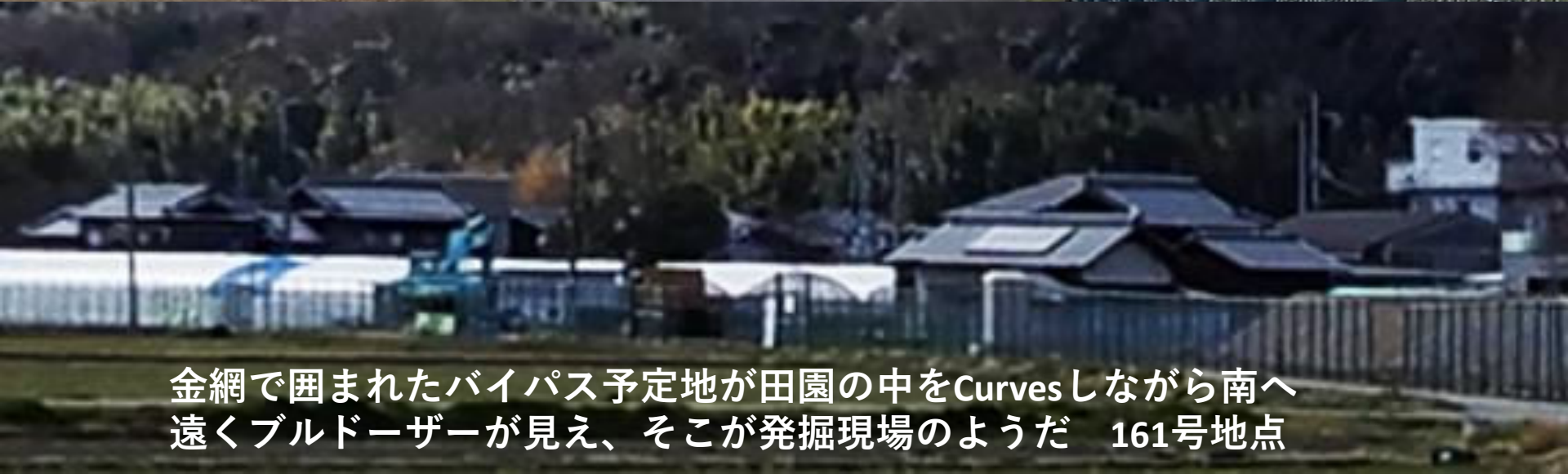
R175





2020. 2. 1.

バイパス予定地に沿って発掘現場を探しながら南へ
金網の中にブルドーザーが見え、難なく発掘調査値がわかる。 171号地点だった



金網で囲まれたバイパス予定地が田園の中をCurvesしながら南へ
遠くブルドーザーが見え、そこが発掘現場のようだ 161号地点



161地点の北端から161地点の発掘現場を眺める 2020.2.1.
ラッキーなことに一部埋戻し破壊が始まっていましたが、
大半の発掘遺構が残されていました



土偶や石棒など縄文の痕跡を残すいぶつがが出土した
弥生の大集落跡玉津田中遺跡 1 6 1 地点の発掘現場
北端から南へ 2020.2.1.



北端から眺めた161地点発掘現場（北東端より） 2020.2.1.
すでに北側では埋め戻しが始まっていて、東西に走る3条の
溝の中央部がブルドーザで壊されていた。
弥生の地層から縄文人と弥生人の共生を示す土偶などの遺物
が出土した発掘調査地です。

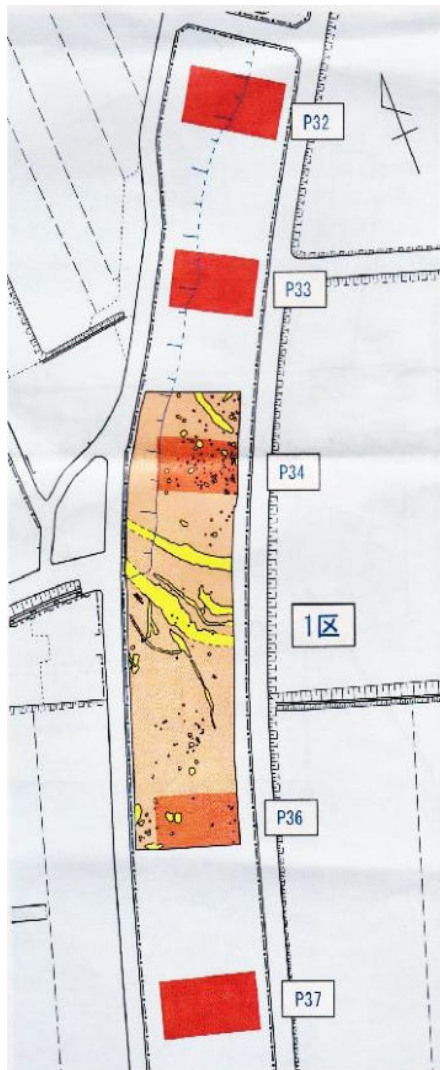


縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平谷町下村 明石川左岸 第二神明ハイパス工事現場 玉津田中遺跡 No.171 地点

No.171地点 1区 (弥生時代前期)

玉津田中遺跡



P34区 全貌 (西から)



土坑の底から、2個体分の土器が重なり合った状態で出土しています。そのうちの1個体は、20世紀前後で作られ、持ち込まれたものです。



溝の底から出土したもので、その形状から、弥生時代の土器であると推定されています。これらは同じ層位で出土しています。



土坑の中から、弥生時代の土器の土器と重なり合った状態で、長さ約1m、幅約1.5mの溝が確認されています。



長さ約1m、幅約1.5mの土坑の底から、溝が確認されています。



P36区 全貌 (西から)



土坑の中から、溝や溝が重なって出土しています。



長さ約1m、幅約1.5mの溝が確認されています。この溝は、弥生時代の土器と重なり、長さ約1m、幅約1.5mの溝が確認されています。弥生時代の土器からは、土器や土器が出土しています。



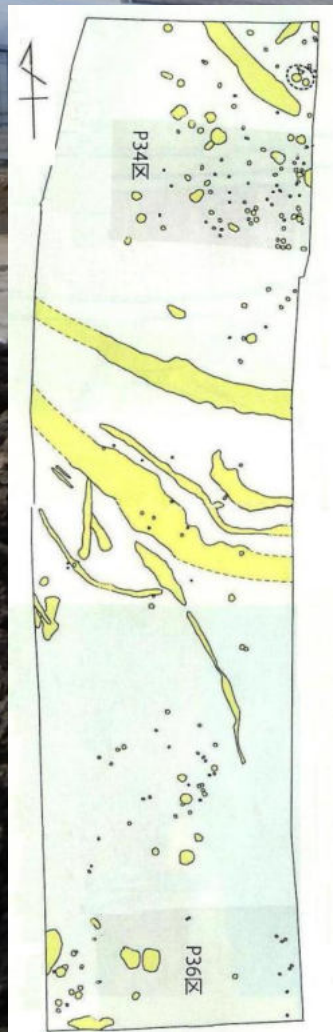
溝の最上部から出土した土器です。



南端から眺めた161地点発掘現場（南西端から） 2020.2.1.
この発掘調査地の南北の端にはたくさんの柱穴が見られ、中央部3条の溝遺構がみられる



161地点発掘現場の3条の溝が走る南北の中央部（南東側から北西側） 2020.2.1.
残念ながらブルドーザーによる破壊埋戻しが始まっていた



南東側から眺めた161地点発掘現場 2020.2.1.





残念ながら 発掘された遺物を見ることができませんでした。が、
現説資料や報道資料でほぼ出土位置を知ることができました。
ひさしぶりにみねる縄文 それも縄文人と弥生人が共生した集落跡
嬉しい遺跡探訪になりました。 2020.2.1.

縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土 縄文人・弥生人共生を示す 弥生時代の大集落遺跡

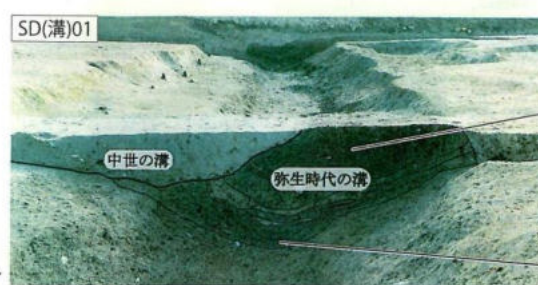
No. 171地点 1区 (弥生時代前期)



隣り合った土坑の中から、やや斜めに据えられた状態で甕が出土しています。これらは土器棺墓と考えられます。



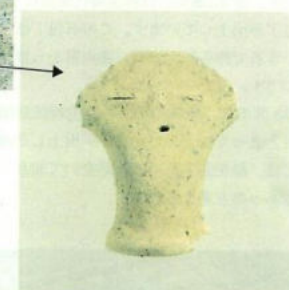
土坑の中から、壺や甕がまとまって出土しています。



幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋没したのち、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器や石包丁、土偶が出土しています。



溝の最上層から出土した石包丁



溝の最下層から出土した土偶



土坑の底から、2個体分の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、河内地域で作られ、持ち込まれたものです。



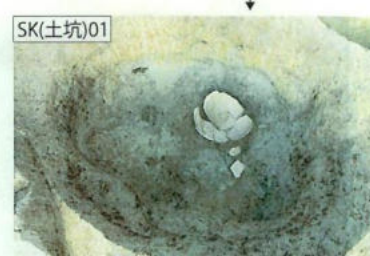
0 10m



P34区 全景(西から)



土坑の中から、弥生時代前期の土器と重なり合った状態で、長さ46cm、幅約2.5cmの石棒が出土しています。



直径1.6m、深さ0.7mの土坑の底から、甕が出土しています。



P36区 全景(西から)



玉津田中遺跡

南北約2キロ・東西約1キロの広さ





幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋没したのち、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器や石包丁、土偶が出土しています。



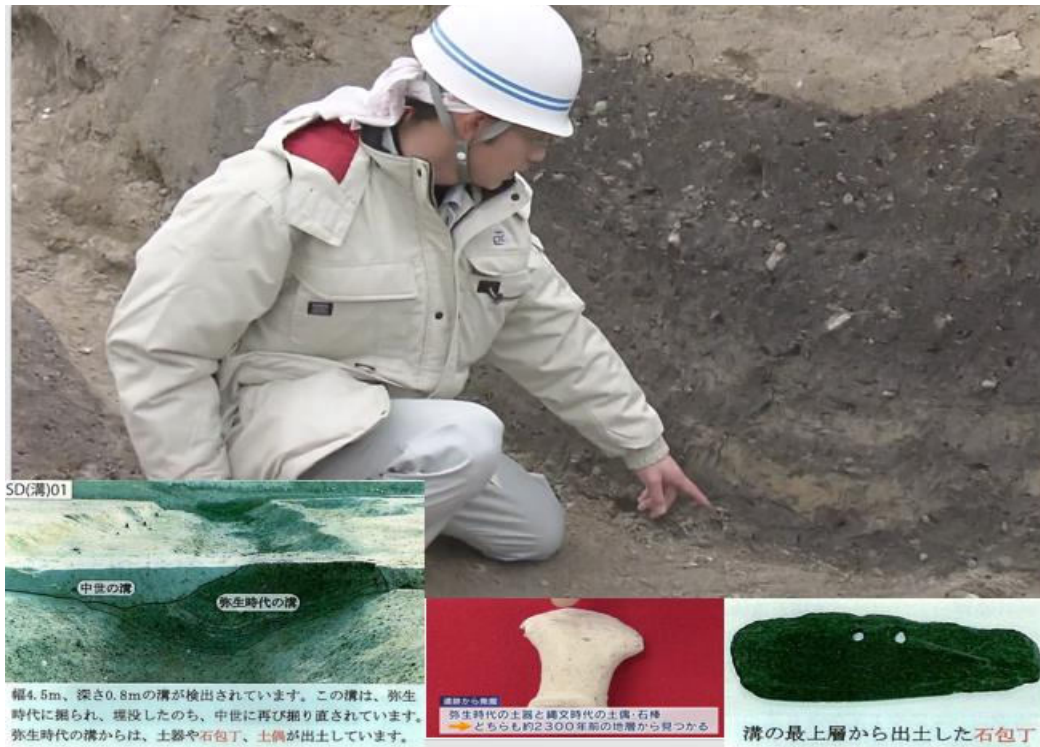
遺跡から発掘

弥生時代の土器と縄文時代の土偶・石棒

→ どちらも約2300年前の地層から見つかる



溝の最上層から出土した石包丁



溝の最上層から出土した石包丁



玉津田中遺跡
出土土偶



内部

縄文人と弥生人が共生した集落で生まれた土偶
随分異なって弥生的。でも空洞も形も縄文通り

縄文の土偶とは表情が
嬉しい共生の証しです





北側161地点から道路を挟んで南側 165号発掘現場 2020.2.1.



春日台

平野町下村

164号地点●

宝珠寺

R175

玉津田中遺跡
171号地点
発掘調査現場

●現在地

175号地点
発掘調査現場

中津橋

上田遺跡



北西側遠く押す岡山が遠望



北東側遠くスタートの春日台の丘遠望



165号地点と161号地点を横切り西の明石川中津橋への道



中津橋から南↓玉津・明石方面 北↑平野・神出方面の遠望

2020.2.1.



明石川



久しぶりの関西からの縄文ニュース

縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠出土地の様子が見たくて、発掘現場の玉津田中遺跡171号地点へ。現説も済んで発掘調査地は埋め戻しが進んでいるかと思いましたが、遺跡遺構が見られてラッキー。縄文人と弥生人の共生集落は明石川東岸に広大な田園地に広がる大集落。

この明石川周辺には縄文から住み替えつつ、いくつもの集落遺跡があり、縄文人と弥生人が交流・共生したのでろう。そして、また弥生の農耕文化が進むに連れ、田園・水をめぐる集落間等の争いも増え、弥生の戦の痕跡も見られるようになる。

でも 縄文人と弥生人が生死をかけて争う戦さは見られず、両者が融合して 日本人が誕生し、今に続く。日本人の心の奥底にある「お互いを認め合う心・やさしさ」のルーツがここに。

2月初めとは思えぬ暖かな日 ゆっくりとそんな遺跡をめぐることができました。

私の住む西神戸の玉津田中遺跡 縄文の世界とともに「融和・共生」を今一度 現代社会にアピールする誇れる弥生遺跡。縄文人と弥生人の共生 それが日本人を誕生させた。

帰りに立ち寄った175号線脇の宝珠寺では、梅が花をつけ春近し。嬉しい一日でした。

忘れ去られていた 縄文人と弥生人の共生を 再度クローズアップしてくれた西神戸の弥生の大集落 玉津田中遺跡

縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No171 地点

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土 神戸・玉津田中遺跡 2020.1. 22. 神戸新聞の報道

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。

土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。

専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方キロメートル。

第二神明道路バイパス建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。

西側にある弥生前期（約2300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7センチ、最大幅約6センチ）と石棒（長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして 彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。

弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

神戸新聞NEXT

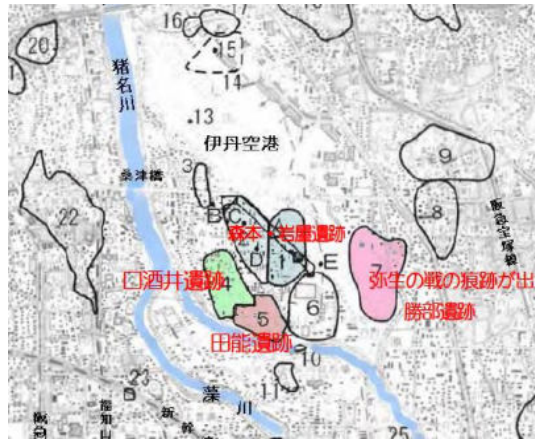
弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.



縄文人と弥生人の共生に思いを馳せて

伊丹市の空港近く猪名川東岸の弥生前期の集落遺跡

弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土し、初めて縄文人と弥生人が共生していたことを明らかにした遺跡として 強く感銘を受けました



水式土器片。左・長野県水遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]
縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡 口酒井遺跡。約2千3百年前(弥生前期)。

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>

10数年前和鉄の道・たたら探求のホームページをはじめ、日本人のルーツや縄文や弥生の暮らしに興味を持って、縄文や弥生の遺跡を訪ね始めた頃、研究者たちが縄文人と弥生人が共生したと考え初めた最初の遺跡。

口酒井の弥生人と縄文人は共生。渡来の弥生人/縄文人の戦いの構図は虚構だったと。でも、当時 弥生の時代といえど 渡来人を中心とした農耕稲作の文化探求の時代。大阪平野や阪神間の平野部では殺傷人骨が出土する弥生の戦いがクローズアップされ、縄文人と弥生人の共生など見向きもされず、先住の縄文と渡来の弥生の戦がイメージされ、「我々の祖先は渡来の人たち」との流れの前に忘れ去られてしまった遺跡です。

10数年 縄文が教科書からも消え、縄文がさらにながしろにされる今

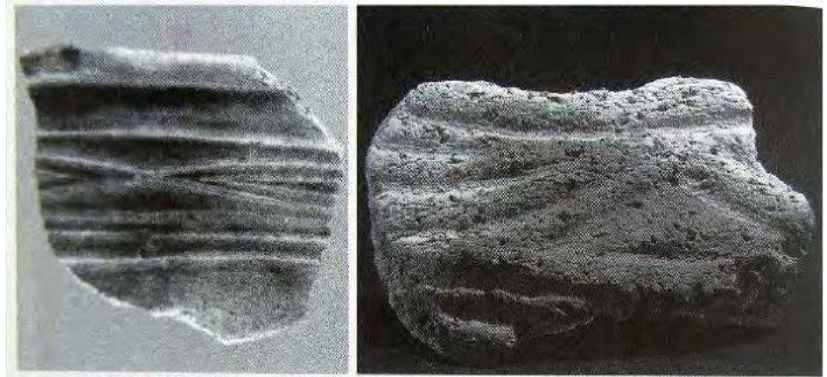
縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップされた。

「心優しき縄文人 縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては

久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、もっと縄文を知ってほしいと。

弥生人と縄文人の共生に思いを馳せて 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

弥生早期頃、東日本の縄文系の人達が
この大阪湾沿岸のこの地にやってきて、
在来の人達と一緒に生活していたことを
初めて解き明かしたのが、
伊丹市の弥生前期口酒井遺跡集落だという。



水式土器片。左・長野県水遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]
縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡 口酒井遺跡。約2千3百年前(弥生前期)。

1. 畿内と播磨の境 明石川・伊川流域

弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf>

2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して 2006.12.5. 神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫛谷

弥生初期から多くの集落があり、平野を見下ろす丘陵の上には高地性集落
ここでも「弥生の戦さ」があった

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf>

3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す

大阪湾沿岸の弥生集落 田能・口酒井遺跡を訪ねる 2012.12.21.

1.大阪湾の海岸部 猪名川河口周辺 弥生の大集落 田能遺跡

2.田能遺跡資料館「弥生の鉄 石器から鉄器へ」展示

3.東日本の縄文系の人と一緒に暮らしていた弥生の集落 口酒井遺跡

<https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>

4. 心優しき縄文人 縄文帰りの勧め 2014.6.1.

<https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf>

縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す 弥生時代の大集落遺跡
神戸西区 玉津田中遺跡 171号地点発掘現場を訪ねる
【整理転載 & 参考資料】

【整理転載 & 参考資料】

1. 玉津田中遺跡 現地説明会資料 2020.1.26. (公財)兵庫県まちづくり技術センター
2. 神戸市教育委員会 記者発表資料 2020.1.21.
玉津田中遺跡(神戸市西区平野町)の発掘調査成果と現地説明会
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf>
3. ニュース「玉津田中遺跡 現地説明会」 SunTV・神戸新聞Nextほか

【和鉄の道・Iron Road :関連掲載記事】

1. 畿内と播磨の境 明石川・伊川流域
弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
<https://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf>
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して 2006.12.5.
神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫛谷
<https://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf>
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
大阪湾沿岸の弥生集落 田能・口酒井遺跡を訪ねる 2012.12.21.
<https://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>
4. 心優しき縄文人 縄文帰りの勧め 2014.6.1.
<https://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf>



縄文人と弥生人の共生を示す玉津田中遺跡近く
平野町下村の郷の宝珠寺で 2020.2.1.



たまつたなか
玉津田中遺跡

令和2年1月26日(日)

現地説明会資料



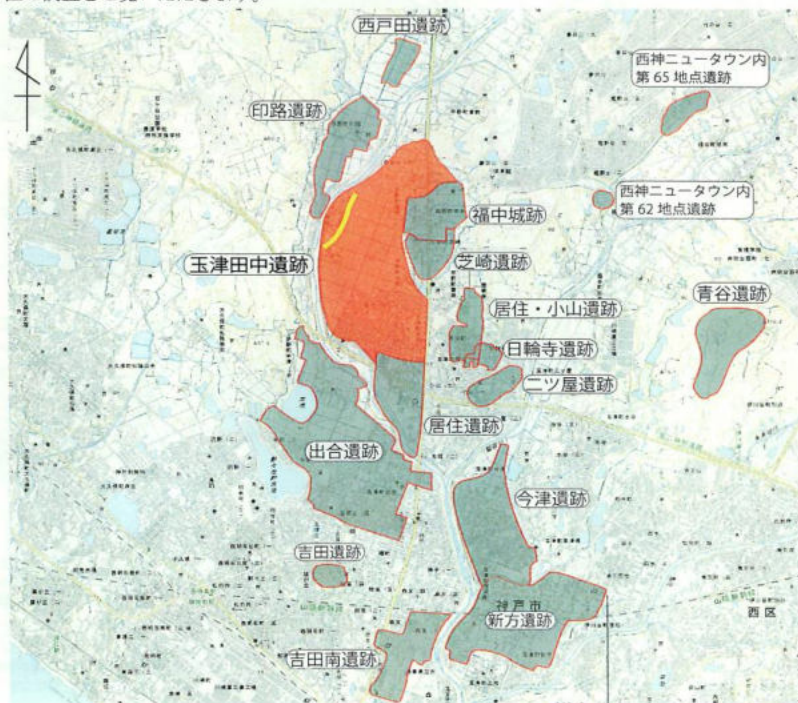
兵庫県教育委員会
(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町1-1-1 兵庫県立考古博物館内
URL: <http://www.hyogo.ctc.or.jp>

—はじめに—

玉津田中遺跡は、神戸市西区玉津町及び平野町に位置する遺跡です。

一般国道2号(第二神明道路)の建設に先立ち、(公財)兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、発掘調査をおこなってきました。

今回、No.164地点・No.171地点・No.175地点を調査しました。発掘調査は、道路の橋脚建設予定地のみ行われたため、各調査地点内は複数の調査区に分かれています。また、No.171地点では橋脚建設予定地の調査の後、新たに調整池建設予定地の調査(1区)を追加して行いました。現地説明会では、この1区の調査をご紹介します。



玉津田中遺跡と周辺の主要遺跡

縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No.171 地点

No.171地点 1区(弥生時代前期)

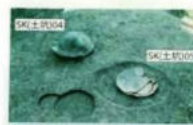
玉津田中遺跡



P34区 全量(西から)



SK1土坑06
土坑の底から、2個体の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、内側に腐食で穴が、跡に残っています。



SK1土坑04
SK1土坑05
溝を合わせた土坑の中から、やや斜めに置かれた状態で出土しています。これらは土器片と推定されます。



SK1土坑07
土坑の中から、弥生時代前期の土器と推定された状態で、長さ40cm、幅約5.5cmの石包丁が出土しています。



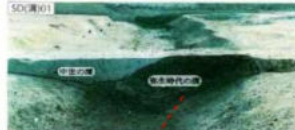
SK1土坑01
深さ1.8m、深さ6.7mの土坑の底から、溝が出土しています。



P36区 全量(西から)



SK1土坑03
土坑の中から、溝や壁が重なって出土しています。



SK1土坑01
幅4.5cm、長さ8cmの溝が出土しています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋められたもの、弥生時代前期の土器が出土しています。弥生時代の溝からは、土器片が出土しています。



SK1土坑01
溝の最上層から出土した石包丁
溝の最下層から出土した土器

No.171地点 1区(弥生時代前期)

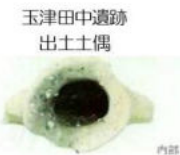


側面

正面

側面

背面



玉津田中遺跡
出土土偶

内部

現説資料 P4-5 を A4 縦 1 枚に再構成処理

玉津田中遺跡の概要

玉津田中遺跡は、明石川中～下流域の沖積地から台地上にかけて立地する遺跡です。昭和57年度から平成3年度にかけて、ウインズタウン西神戸の区画整理事業に伴って、約80,000㎡もの大規模な発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代晩期から古墳時代後期の集落と、平安時代後期から鎌倉時代の集落・居館跡が確認されました。

なかでも特筆すべきは、弥生時代の遺構と遺物です。遺構は、多数の堅穴住居跡や方形周溝墓などが見つかりました。また、その周辺からは広範囲におよぶ水田の痕跡が見つかりました。遺物についても、多量の土器や石器、木器、青銅器が出土しています。なかには、遠方の地域からもたらされた土器や石器もみられ、当時の人々の交流の様子が窺えます。

このように、玉津田中遺跡は弥生時代においては播磨地域を代表する中心的な集落でした。

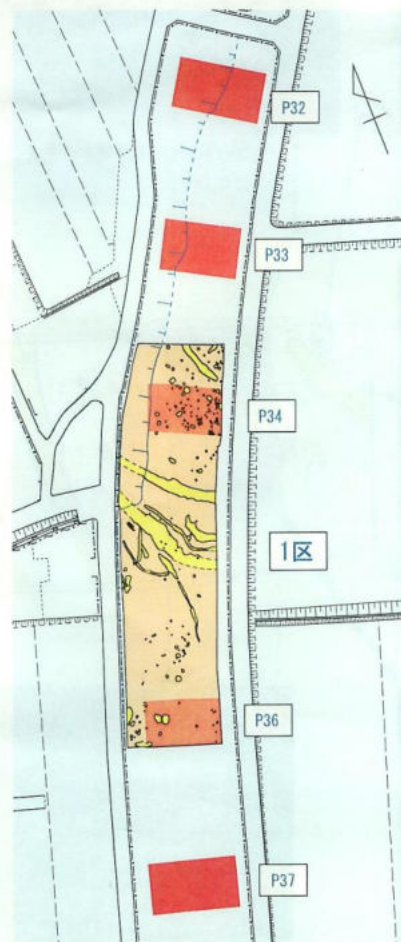


玉津田中遺跡の遺跡範囲と今回の調査箇所

No. 171 地点

6箇所を調査を行いました。今回見学していただく1区は、追加で調査を行った調整池建設予定地であるため、先行して調査を行ったP34区とP36区に重複するかたちで設定されています。調査の結果、No. 171地点の全ての調査区で弥生時代前期と中世の遺構と遺物が検出されています。

今回は、P34区とP36区を含む1区と、その他の調査区に分けて説明します。



No. 171 地点調査地



No. 171 地点 俯瞰写真

No. 171地点 1区 (弥生時代前期)



隣り合った土坑の中から、やや斜めに据えられた状態で甕が出土しています。これらは土器棺墓と考えられます。



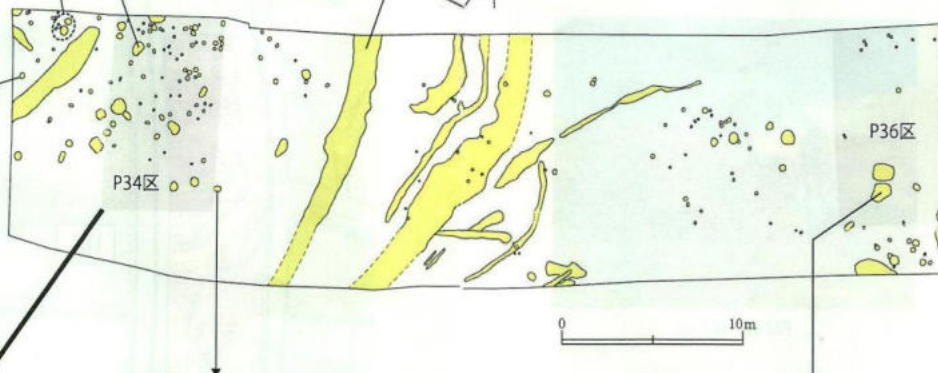
土坑の底から、2個体分の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、河内地域で作られ、持ち込まれたものです。



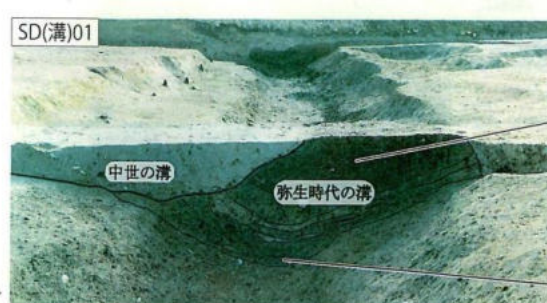
P34区 全景(西から)



土坑の中から、壺や甕がまとまって出土しています。



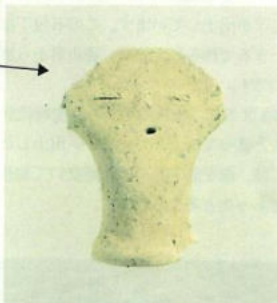
土坑の中から、弥生時代前期の土器と重なり合った状態で、長さ46cm、幅約2.5cmの石棒が出土しています。



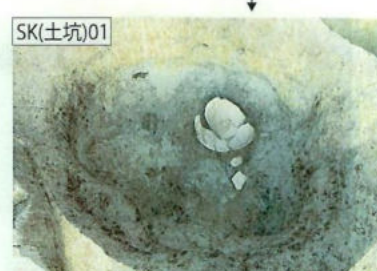
幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋没したのち、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器や石包丁、土偶が出土しています。



溝の最上層から出土した石包丁



溝の最下層から出土した土偶



直径1.6m、深さ0.7mの土坑の底から、甕が出土しています。



P36区 全景(西から)

No. 171 地点（1区以外）

No. 171 地点のその他の調査区では、1区と同様に、弥生時代前期および中世の遺構と遺物が検出されています。P32区では、調査区の西側で明石川の水 flow によって長い年月をかけて形成された崖（段丘崖）が見つっています。崖の高さは約0.8mで、P32区の南側のP33区や1区からも見つっています。崖の上からは、弥生時代の溝やピットが見つっています。また、溝からは弥生時代前期の土器と共に、石包丁が出土しています。この石包丁はサヌカイトという石で作られており、香川県から持ち込まれたものです。

P33区では、土坑の中から弥生時代前期の壺や甕がまとまって出土しています。出土した壺の口の付近には、紐を通すための孔が空いており、蓋とセットであったと考えられます。



P32区 石包丁が出土した溝



P32区 段丘崖上の遺構
(黄色の点線が段丘崖)



P32区 段丘崖



P33区 段丘崖の下から出土した壺

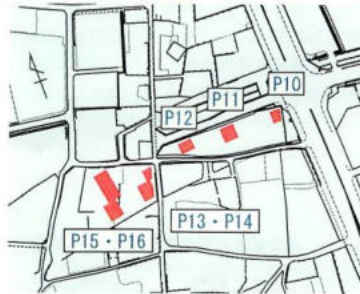


P33区 土坑内からまとまって出土した壺や甕

No. 164 地点

国道175号線に面するNo. 164地点では、5箇所調査を行いました。この調査地点は、明石川左岸の台地の上に立地しています。調査の結果、古代から中世にかけての溝や土坑、ピットが検出されています。また、P11区の土坑からは、須恵器の碗や甕がまとまって出土しています。

これらのことから、古代から中世にかけて台地上に集落が形成されていたことが明らかとなりました。



No. 164 地点の調査区



P11区 土坑内から出土した須恵器

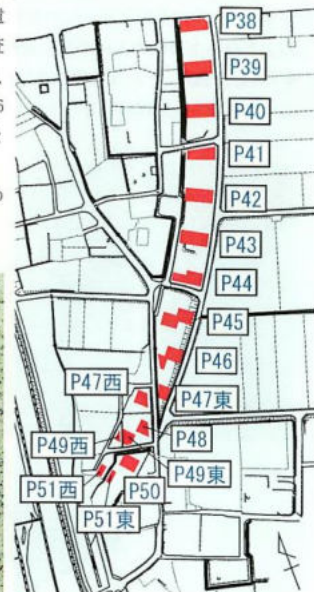
No. 175 地点

No. 171地点の南側に位置するNo. 175地点では、17箇所調査を行いました。調査の結果、弥生時代から近世にかけての遺構が検出されています。その中でも、中世の遺構が多く調査区で確認されています。P48区では、土坑の中からすり鉢や塀、羽釜、甕などがまとまって出土しています。また、付近のP46区やP47区からも同様に、土坑や溝から土師器や須恵器がまとまって出土しています。

このように、No. 175地点を含めたこの辺り一帯には、中世の集落が広がっていたことが明らかとなりました。



P48区 土坑から出土したすり鉢や塀、甕



No. 175 地点の調査区

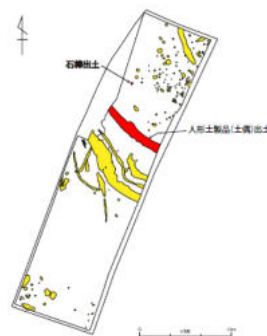
玉津田中遺跡 発掘調査状況写真



玉津田中遺跡調査区全景（南から）

玉津田中遺跡調査区全景（南かつ）

玉津田中遺跡 No.171地点 1区 平面図



弥生時代前期の遺構の調査状況



石棒と土器の出土状況



人形土製品（土偶）正面



人形土製品（土偶）各部名称

玉津田中遺跡調査成果の概要

- 1 遺跡名 玉津田中遺跡（たまつたなかのせき）
- 2 遺跡の種類 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代・中世
- 4 所在地 神戸市西区平野町下村
- 5 調査面積 約1,700㎡（No.171地点）
- 6 調査期間 令和元年5月～令和2年2月末（予定）
- 7 調査原因 一般国道2号第二神明道路建設事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
担当 山田清朝副課長、奥原悠斗技術職員

10 調査の概要

- ① 兵庫県を代表する弥生時代～鎌倉時代の集落遺跡である玉津田中遺跡は、昭和59年度から平成3年度にかけて土地区画整理事業に伴う発掘調査が実施されました。その後の調査の結果、遺跡の規模は南北約2km、東西約1km、面積は約1.5㎢に及び、多くの土器とともに弥生時代の住居跡・墓、鎌倉時代の建物跡・墓・井戸などが多数見つかりました。
 - ② 今年度、第二神明道路建設事業に伴って玉津田中遺跡の北西部を3地点（No.164地点、No.171地点、No.175地点）調査しました。今回は、そのうちNo.171地点の成果について発表します。
- この調査地点から、弥生時代と鎌倉時代以降の遺構が見つかりました。
- ③ 鎌倉時代以降の遺構は、竪立柱建物跡・柱穴・土壇・溝があり、鎌倉時代に使われていた須恵器・土器器も出土しましたが、その量はわずかです。
 - ④ 弥生時代の遺構は、前期（今から2,300年前）のものに限られ、土壇や柱穴・溝があります。土器・石器などが出土しましたが、特筆されるものに石棒1点、人形土製品（土偶）1点があります。
 - ⑤ 石棒は、縄文時代に多く見られる祭祀具で、完全な状態で出土し、和歌山県や徳島県で産出される緑泥片岩でつくられています。弥生時代の出土は兵庫県内で9例目となり、神戸市内では、本山遺跡（東灘区）、北青木遺跡（東灘区）、栗井遺跡（中央区）、大開遺跡（兵庫区）、戎町遺跡（須磨区）、宇治川南遺跡（兵庫区）について7例目、他に、丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）と井干田遺跡（南あわじ市）で出土しています。
 - ⑥ 人形土製品（土偶）は縄文時代の土偶と同じく祭祀に使用されたと考えられます。遺の中から顔部がほぼ完全な状態で出土し、顔の表情が確認できます。弥生時代の出土は兵庫県内で6例目となり、神戸市内では、栗井遺跡（中央区）、宇治川南遺跡（兵庫区）、長田神社境内遺跡（長田区）について4例目、他に、口酒井遺跡（伊丹市）と丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）で出土しています。
- 石棒と人形土製品（土偶）が同じ遺跡から出土したのは、栗井遺跡、宇治川南遺跡、丁・柳ヶ瀬遺跡について兵庫県内で4例目となります。

11 まとめ

石棒と人形土製品（土偶）は縄文文化を象徴する一方、弥生土器や石包丁などは弥生文化を特徴づける要素で、両者が同じ調査区から一緒に出土している点が注目されます。これらは、縄文時代から弥生時代への移りかわりを知る事例と考えられます。

—まとめ—

今回の調査の結果、弥生時代と平安時代以降の遺構と遺物が検出されました。なかでも**弥生時代前期**（約2,300年前）の遺構と遺物が注目されます。特筆すべきは、SD（溝）01から出土した**土偶**と、SK（土坑）02から出土した**石棒**です。これらは、縄文時代の文化を色濃く残した遺物であり、弥生土器と共に出土していることが注目されます。また、SK（土坑）04とSK（土坑）05から出土した土器は、土器棺墓と考えられ、こちらも縄文時代の文化の一端と考えられます。一方で、今回の調査では石包丁が4点出土しており、弥生文化の特徴と言える稲作を営んでいたと考えられます。

このように、縄文文化を象徴する土偶・石棒と、弥生文化を象徴する弥生土器・石包丁が共に出土している点が今回の調査の最大の成果と言えます。弥生時代前期は文化の移行期であり、縄文人と弥生人が共生していたことがわかる事例であると言えます。

弥生時代の土偶と石棒

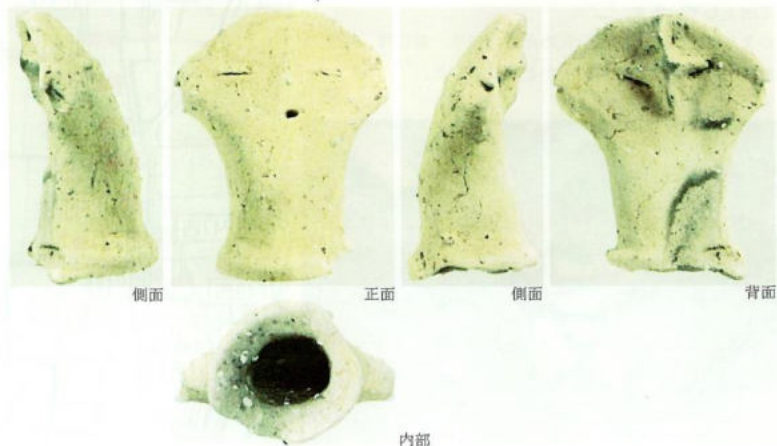
兵庫県を含めた近畿地域では、土偶と石棒は縄文時代の後半期に最も出土します。弥生時代になると、その出土数は減少の一途をたどっていきます。兵庫県内での弥生時代の出土例としては、土偶が6例目（神戸市内4例目）、石棒が9例目（神戸市内1例目）となります。また、土偶と石棒が同じ遺跡で出土した例としては4例目となります。

玉津田中遺跡から出土した土偶は、顔面が非常に丁寧に表現されており、中は空洞になっています。

このような弥生時代の人のかたちを模した土製品は、「土偶」や「人形土製品」という名称で呼ばれています。しかし、この二つの名称の区別ははっきりとはしていません。

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名	石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○ ○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○ ○
大腕遺跡	神戸市兵庫区	○
長田神社境内遺跡	神戸市長田区	○
本山遺跡	神戸市東灘区	○
北青木遺跡	神戸市東灘区	○
戎町遺跡	神戸市須磨区	○
玉津田中遺跡	神戸市西区	○ ○
口酒井遺跡	伊丹市	○ ○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○ ○
井手田遺跡	南あわじ市	○



玉津田中遺跡から出土した土偶

玉津田中遺跡 発掘調査状況写真



玉津田中遺跡調査区全景（南から）



玉津田中遺跡調査区全景（南から）



弥生時代前期の遺構の調査状況



石棒と土器の出土状況



人形土製品（土偶）正面



人形土製品（土偶）各部名称

忘れ去られていた 縄文人と弥生人の共生を 再度クローズアップしてくれた西神戸の弥生の大集落 玉津田中遺跡

縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No171 地点

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土 神戸・玉津田中遺跡 2020.1.22. 神戸新聞の報道

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。

土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。

専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方キロメートル。

第二神明道路バイパス建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。

西側にある弥生前期（約2300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7センチ、最大幅約6センチ）と石棒（長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして 彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。

弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1.22.





縄文人と弥生人が共生した集落で生まれた土偶
随分異なって弥生的。でも空洞も形も縄文通り

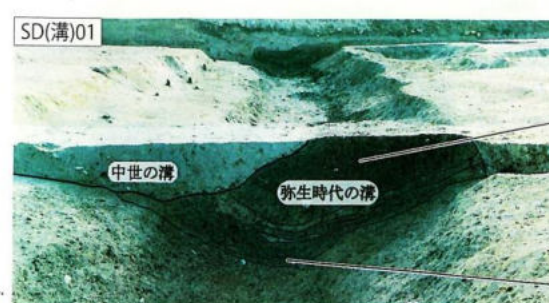
縄文の土偶とは表情が
嬉しい共生の証しです



隣り合った土坑の中から、やや斜めに据えられた状態で甕が出土しています。これらは土器棺墓と考えられます。



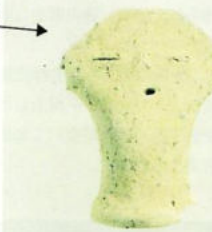
土坑の中から、壺や甕がまとめて出土しています。



幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋没したのち、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器や石包丁、土偶が出土しています。



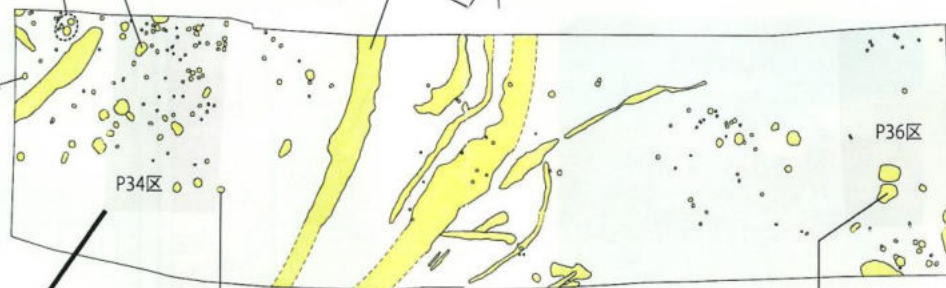
溝の最上層から出土した石包丁



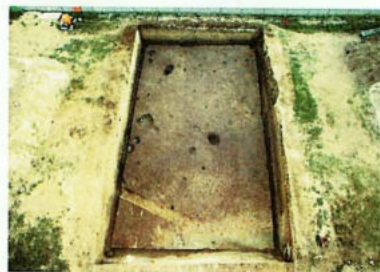
溝の最下層から出土した土偶



土坑の底から、2個体分の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、河内地域で作られ、持ち込まれたものです。



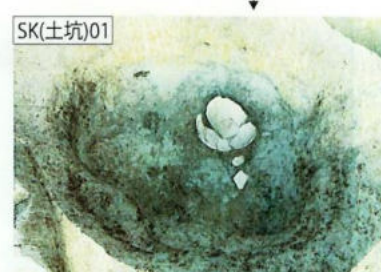
0 10m



P34区 全景(西から)



土坑の中から、弥生時代前期の土器と重なり合った状態で、長さ46cm、幅約2.5cmの石棒が出土しています。



直径1.6m、深さ0.7mの土坑の底から、甕が出土しています。



P36区 全景(西から)

久しぶりの関西からの縄文ニュース 2020.2.1.

縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土 縄文人・弥生人共生を示す 弥生時代の大集落遺跡 神戸西区 玉津田中遺跡 171号地点発掘現場を訪ねる



神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1.22.



兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

弥生の土偶「のっぺり顔」

狩猟から農耕へ「変遷知る史料」



玉津田中遺跡から見つかった土偶。表情が平面的で弥生人の特徴を示す＝神戸市西区平野町

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。

(佐藤健介)

神戸・玉津田中遺跡で発見

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方メートル。第二神明道路建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。西側にある弥生前期(約2300年前)の集落跡から、土偶の頭部(長さ約7センチ、最大幅約6センチ)と石棒(長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ)が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくつきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

秋山浩三・桃山学院大客員教授(考古学)は「呪術に象徴される縄文精神の残影が、弥生で共存していたことを如実に示している。狩猟文化が農耕文化を受け入れる過程の解明が期待できる」と評価している。

現地説明会は26日午後1時半～3時にあり、県立考古博物館(播磨町)で同日午後0時半～1時に説明会を現地からライブ中継する。

現場事務所 ☎078・961・0678 (平日午後0時10分～1時、同5～6時)

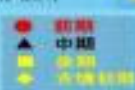
明石平野の弥生時代遺跡分布

(明石平野周辺) 弥生時代の村あて



明石川流域周辺の弥生遺跡

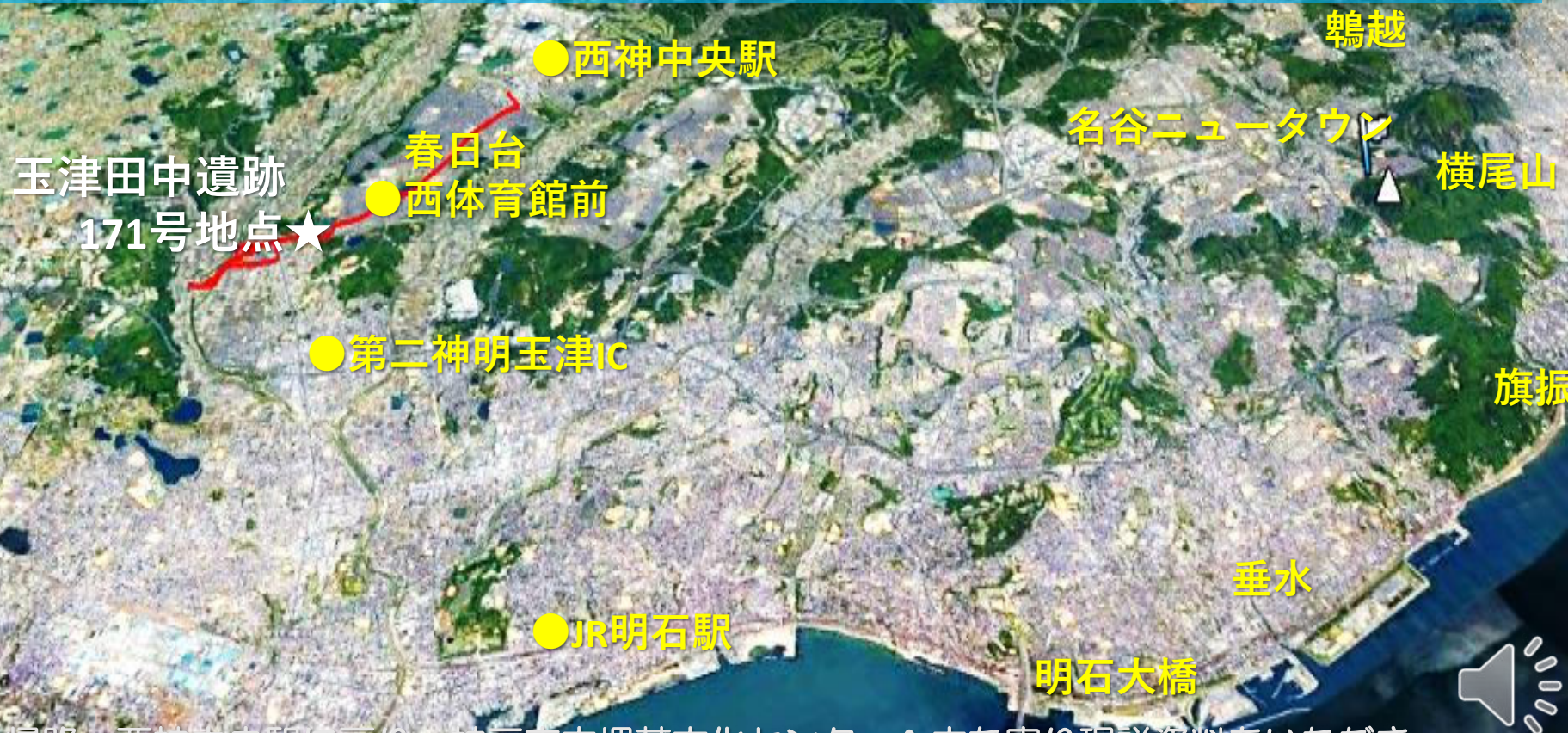
1 狩口台	21 西神NT.47	41 森友
2 舞子・東石ヶ谷	22 西神NT.50	42 吉田
3 大蔵山	23 西神NT.48	43 片山
4 桜ヶ上銅器出土地	24 西神NT.66	44 吉田南
5 栄弥生墳墓	25 大畑	45 新方
6 押部	26 春日神社	46 久留主谷
7 緒田	27 春日神社西	47 頭高山
8 住吉神社	28 西神NT.59	48 岡
9 元住吉山	29 西神NT.62	49 池上北
10 舞田	30 曾野	50 北瀬南
11 舞田中の池	31 玉津田中	51 南別府
12 舞田	32 芝崎	52 池上ノ池
13 舞田	33 居住・小山	53 上ノ丸
14 西神NT.38-40	34 居住	54 別所・別所谷
15 西神NT.42	35 橋本	55 堂ヶ保
16 舞田	36 知恵寺裏山	56 松ノ内
17 舞田	37 青谷	57 赤根川
18 常木	38 高津橋・岡	
19 西戸田	39 今津	
20 舞田南	40 出谷	



縄文を示す土偶・石棒・石包丁と弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す 弥生時代の大集落遺跡
玉津田中遺跡171号地点を訪ねる

2020.1.22. 久しぶりの関西からの縄文ニュース

2020.2.1. by Mutsu Nakanishi



帰路 西神中央駅に戻り、神戸市立埋蔵文化センターへ立ち寄り現説資料をいただき、作成した本資料では一後先になりますが、インターネットに公開された記者発表資料を含め、訪ねた田中遺跡171号地点の発掘調査現場の記述にその資料から発掘現場をチェックして、参考として記入させていただきました

福寿草

春はもうすぐ
そこに
2020.2.1.

